

# JA 全農ちば 営農情報集

2025年  
1月



## 今月の情報

1. 令和7年産水稻栽培に向けた技術対策について
2. 施設野菜の病害防除について
3. 安全な農作物生産の取り組みについて
4. Z-GIS キャンペーン

## 今月の気象（気象庁1/4発表 1か月予報より）

気温の変化、日照時間は平年並みの予報です。また、晴れの日が多く日照時間も長くなる予報ですが、急な低温による凍霜害等に注意しましょう。適宜気温を確認し、必要に応じ被覆等の対策を実施しましょう。



■:低い ■:平年並み ■:高い

### 注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

# 令和7年産水稻栽培に向けた技術対策について

J A全農ちば  
営農支援部

## 1. 令和6年産水稻での課題について

令和6年産米の品質は、斑点米や白未熟粒の発生が多く、令和4年、令和5年に比較し、一等米割合は低下しました。

高温が続いたことにより、例年より出穂が1週間程度早まり斑点米カメムシ類の防除の適期を逃すなどの心配がありました。

コシヒカリでは、稈長が伸び倒伏した圃場が多く見られ品質への影響もありました。

病害の発生は少ない傾向ですが、イネカメムシ、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生量が多く、被害も多く出ました。また、イネカメムシによる被害と思われる減収する程の不稔が見られました（特に遅い稲で）。

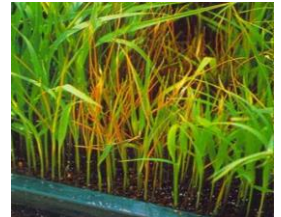
## 2. 健康な苗を作る

(1) 種子伝染性病害や苗立枯病の発生予防

各種発生予防に向け、種子消毒はヘルシードTフロアブルまたはテクリードCフロアブルを使用しましょう。育苗中に罹病苗を発見したら抜き取り分けし、発生の見られない無病の苗箱から移植しましょう。



正常な苗



苗立枯細菌病罹病苗

(2) 計画的な播種と温度管理

高密度播種苗は、移植の適期が短く老化苗となると活着が悪くなるため、計画的な播種と温度管理に特に注意しましょう。

## 3. 移植後の適正な水管理

活着促進と分けつを確保するため、浅水管理を基本とし、移植最盛期にあたる4月中下旬に低温や強風となる場合は、やや深水で管理し移植苗を保護します。

5月になり気温が上昇するとスクミリンゴガイの食害が激しくなるため浅水管理と薬剤防除を実施します。田面の均平化も有効です。

減水深の大きいほ場や老化苗となってしまった場合は、除草剤の薬害を考慮し田植同時処理等を控えます。還元障害が発生したら、速やかに落水を行い、根周辺の空気の入替え活性を高めるようにしましょう。

## 4. 品質向上のために適正な中干しと追肥の施用

品種毎に中干し開始の目標茎数を確保できたら、速やかに中干しを開始します。中干しにより過剰な分けつを抑え、適正な生育量を確保します。また、土壤に酸素を供給し、根の活力を維持・活性させ深く伸長させることで、気象変動に強い稲体づくりを図ります。

穂肥は収量と品質を確保する最も重要な管理です。幼穂形成期の生育量（茎数、葉色、草丈）に応じ、適切な穂肥の時期と量を施用します。また、近年は登熟期間となる7月下旬～8月下旬の気温が高く、出穂期の栄養状態の悪化（葉色の低下）が重なると高温登熟障害のリスクが高まります。コシヒカリ・ふさがね・粒すけで登熟期間の高温が予想され、出穂5～7日前の葉色が薄い場合は、窒素成分で1kg/10aを上限に追肥を行うと、白未熟粒の抑制が図れます。

自然由来のカドミウム吸収を抑える技術として、出穂期3週間前から出穂期2週間後の間は湛水管理を徹底しましょう。

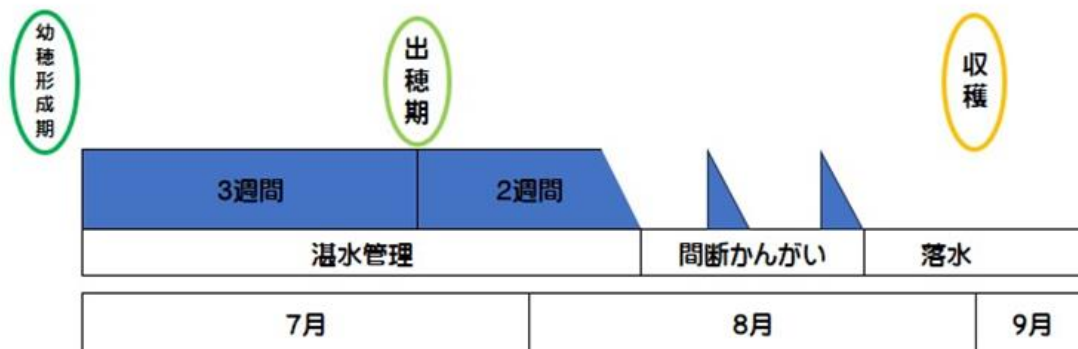


図. 幼穂形成期以降の水管理の目安（「コシヒカリ」の場合）

## 5. 斑点米カメムシ類の適期防除

大型の斑点米カメムシ類の対策として、出穂期2週間前までに水田周辺の除草を終えます、薬剤防除は発生が多い場合は出穂期～穂揃期と乳熟期・糊熟期（出穂後14日頃）の2回の防除を実施します。ただし、イネカメムシの発生が心配される場合は出穂期前に防除を実施します。カスミカメ類は、割れ粃の発生と重なると斑点米の発生リスクが高まります。割れ粃は、幼穂形成期に低温や日照不足にあたると粃の形成が抑制され発生しやすくなります。

## 6. 早期落水の防止と適期収穫の励行

早期落水による水不足は登熟障害の要因となり収量や品質の低下を招きます。収穫に向けた落水は出穂期25日後以降とします。

適期収穫による良品質米を生産するため、収穫時期の判定は帯緑色籾歩合で行います。

## 7. 秋耕による稲わらの腐熟促進

秋に稲を収穫した後の稲わらを放置し、翌春にすき込む事例が多くなっています。しかし、稲わらは田面に放置しても腐熟しません。

稲わらを春にすき込むと、土壌中の酸素が欠乏し還元状態となり、有機酸や硫化水素が発生しガス害を受けます。分解に多量の窒素を必要とするため一時的に窒素不足になります。

春までに稲わらの腐熟を進めるためには、微生物が活発に活動する地温15℃以上の秋に稲わらをすき込みましょう。稲わらの分解を進めるには酸素が必要であり、土壌表面が乾いている時が稲わらのすき込みに適しています。

(過湿な状態で耕耘し土壌を練らないように注意しましょう)

※二番穂が斑点米カメムシ類のエサとなり、越冬数が多くなる事も心配されます。二番穂の対策も兼ねて秋耕に取り組みましょう。



※秋耕の様子(写真は県より提供)

# 施設野菜の病害防除について

## 1. イチゴーうどんこ病・灰色かび病 **予防主体の防除を！**

### (1)うどんこ病

葉裏から発生することが多く、感染が拡大すると葉表や葉柄、果実にも被害が及びます。未熟な果実に発生した場合、肥大が悪くなるほか、成熟しても果色が悪く味も低下してしまいます。胞子の発芽適温は17～20℃前後で、空中を飛散して広がります。

**開花結実期に発病すると被害が大きくなるため、予防主体の徹底した防除を行いましょう。**



葉に発生したうどんこ

### (2)灰色かび病

枯死した下葉などで病原菌が寄生増殖し、感染が拡大すると主に果実を中心に、果梗や葉柄、葉を侵します。果実が発病すると、褐変して灰色のカビを生じます。病原菌の発育適温は23℃ですが、最低2℃でも発育します。また、**過繁茂状態や湿気の高いところは発病が多くなるため、薬剤防除のみに頼らず、施設内の環境改善にも取り組みましょう。**



果実に発生した灰色かび病

### (3)薬剤防除

●イチゴ うどんこ病・灰色かび病 防除薬剤

対象病害	FRACコード	薬剤名	希釈倍数※1	使用時期	使用回数	備考
うどんこ病	3	トリフミン水和剤	3000	収穫前日まで	5回以内	予防・治療
	50	クロスアウトフロアブル ※2	3000		3回以内	予防・治療
	M7	ベルコートフロアブル	2000		5回以内	予防
うどんこ病	7	ケンジャフロアブル	1500		3回以内	予防
	9	フルピカフロアブル ※3	2000		3回以内	予防
灰色かび病	7+11	シグナム WDG ※4	2000		2回以内	予防・治療
	9+U13	ショウチノスケフロアブル ※3	2000	2回以内	予防・治療	
灰色かび病	12	セイビアーフロアブル 20	1000		3回以内	予防

※1 希釈倍数は登録のうち最大濃度を示しています（例：2000～3000倍登録→2000）

※2 クロスアウトフロアブルは旧プロパティフロアブルと同成分

※3 フルピカとショウチノスケは同成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて3回以内）

※4 シグナムはカンタスの成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて3回以内）

## 2. キュウリーうどんこ病・菌核病・灰色かび病 **施設栽培での急拡大に注意！**

### (1)うどんこ病

キュウリのうどんこ病は、主に葉の表面に発生し、被害が進むと葉全体が白い粉で覆われ、やがて枯死します。15～28℃のやや乾燥条件下で多発します。乾燥条件では被害が早く拡大しますので、発病を認めたらすぐに薬剤防除を行いましょう。



うどんこ病の被害



うどんこ病の病斑

**環境保全** 環境負荷に係るリスク管理, 温室効果ガス削減の取組み、土づくりや施肥設計を通じた土壌管理

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

## (2)菌核病

茎、果実、および葉に発生します。果実では、下の写真のように花落ち部分から侵され白色の菌糸を、葉には淡褐色から灰色の大きな病斑を生じます。発病適温は 20℃前後ですが、10℃以下の日が続いても発生が多くなります。



果実に発生した菌核病の菌核



茎に発生した菌核病の菌核

## (3)灰色かび病

主に咲き終わってしぼんだ花の部分から感染し、下の写真のような灰色のカビを生じます。感染拡大すると主に地面に近い幼果から侵し、果実を黄褐色化させ、しだいに軟らかく腐敗させます。菌核病との同時防除が可能ですが、**灰色かび病菌の耐性菌の出現に注意し、同一系統薬剤の連用・多用は避けましょう。**



灰色かび病の実の被害



灰色かび病の葉の被害

## (4)薬剤防除

●キュウリ うどんこ病：☐・菌核病：☑・灰色かび病：☒ 防除薬剤

対象病害	FRACコード	薬剤名	希釈倍数※1	使用時期	使用回数	備考
☐・菌 ・☒	M7	ベルコートフロアブル	2000	収穫前日 まで	7回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
		ケンジャフロアブル	1500		4回以内	予防
☐・☒	11	アミスター20フロアブル	1500		4回以内	予防・治療
	9	フルピカフロアブル ※2	2000		4回以内	予防
	9+U13	ショウチノスケフロアブル ※2	2000		2回以内	予防・治療
☑・☒	12	セイビアーフロアブル 20	1000		3回以内	予防
	1+10	ゲッター水和剤	1500	5回以内	予防・治療	
	2	ロブラール水和剤	1000	4回以内	予防・治療	

※1 希釈倍数は登録のうち最大濃度を示しています（例：2000～3000倍登録→2000）

※2 フルピカとショウチノスケは同成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて4回以内）

環境保全 環境負荷に係るリスク管理, 温室効果ガス削減の取組み、土づくりや施肥設計を通じた土壌管理

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

# 安全な農作物生産の取り組みについて

## ～燃料の保管方法～

### 1. はじめに

燃料の管理方法が適正でない場合、火災や、漏出による青果物・土壌汚染のリスクが発生します。 燃料の適切な保管方法は消防法および市町村の火災予防条例により定められています。以下の点が重要ですので、この機会に再確認しましょう。

- (1) 燃料の近くに燃えやすいものを置かない。タバコなど引火の危険性がある行為をしない。
- (2) 燃料を収納する容器は破損・腐食等の無い適切なものを使用し、風通しの良い冷暗所で保管する。火気厳禁等の表示をする。
- (3) 燃料の流出に備える（防油堤・吸着用の砂の用意等）。

### 2. 燃料の保管容器について

安全のため、適切な容器で保管しましょう。 特に灯油用ポリ容器にガソリンを入れると以下の問題が生じることから極めて危険なため、消防法により禁止されています。

- (1) ガソリン成分によりポリ容器が変形し、ガソリンが漏出する恐れあり！
- (2) キャップが劣化している場合、ガソリン蒸気圧により蓋が外れる恐れあり！
- (3) ポリ容器はガソリンとの流動による摩擦で静電気が溜まり、引火する恐れあり！



画像：危険物保安技術協会HPより引用

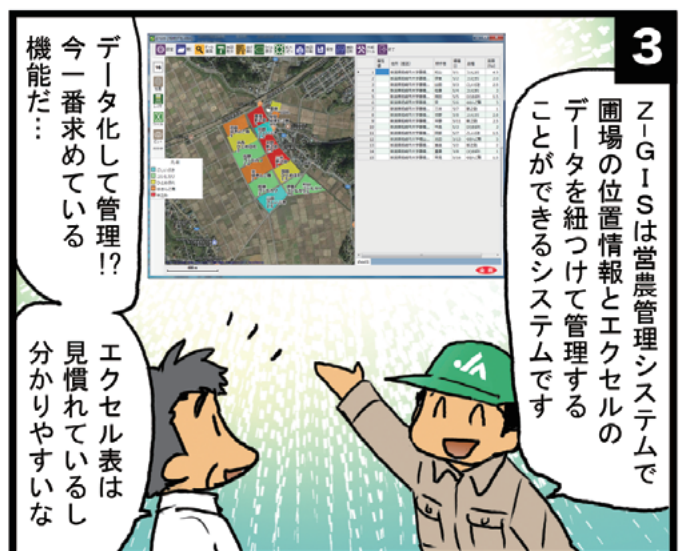
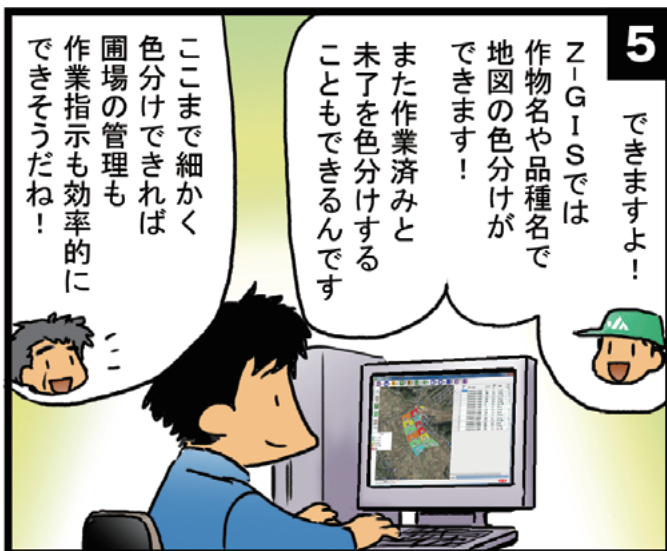
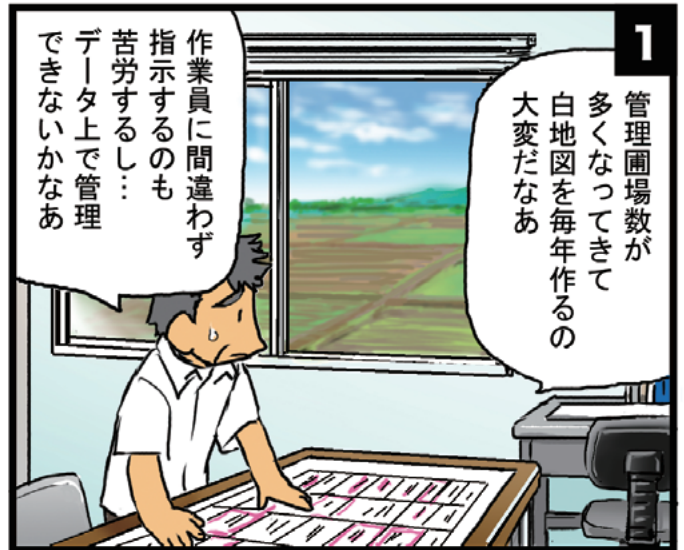
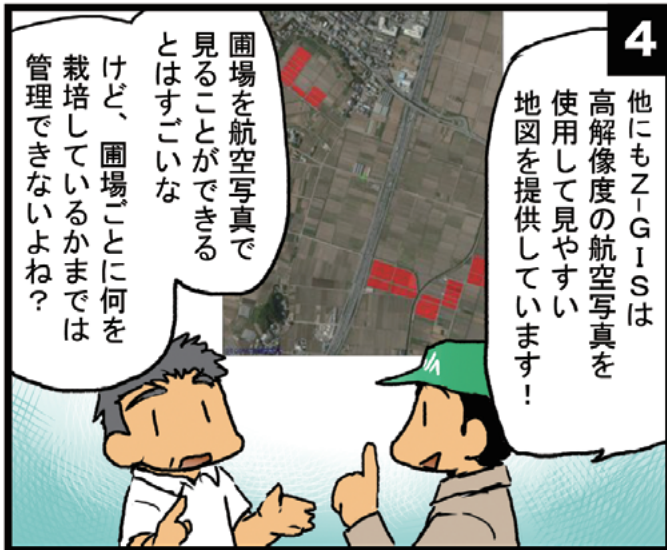
### 3. 燃料の貯蔵量に応じた法令対応について

消防法に適合した容器で保管する場合でも、貯蔵量により法令順守への対応が変わります。指定数量の5分の1以上を貯蔵する場合は、安全性の高い設備を備え、管轄する消防機関への届け出等が必要となります。消防法や市町村の火災予防条例について、今一度確認してみましょう。

種類		燃料の例	指定数量・5分の1の量
第四類 引火性液体	第一石油類	ガソリン	200ℓ・40ℓ
	第二石油類	灯油・軽油	1000ℓ・200ℓ
	第三石油類	重油	2000ℓ・400ℓ

例) ガソリン 40ℓ以上～200ℓ未満を貯蔵する場合は、前述の防火対策等を備え、消防機関へ届け出が必要。200ℓ以上では消防機関の許可が必要。

# 圃場管理ならお任せあれ！ スマートフォンに表示可能 営農管理の強い味方！Z-GISのご紹介★



●営農管理システム「Z-GIS」のお問い合わせは

一般社団法人 農協協会 Z-GIS管理部

JA全農 耕種総合対策部 スマート農業推進課

TEL.03-3639-1125

TEL.03-6271-8274



<https://z-gis.net/99/>



今ならお得なチャンス!

# はじめようスマート農業キャンペーン

日々の作業を  
効率化しませんか?

2024年12月1日 ▶ 2025年3月31日

営農情報を地図で可視化!

## Z-GIS

全農 営農管理システム



### 入会者 (新規のみ)

利用料

ご加入から **4カ月目**まで

# 無料

例: 2月15日申込の場合、5月末までの利用料が無料

申込みは  
Z-GISホームページ .....▶  
または専用申込書から



## Z-GIS 初級者向け WEB講習会開催

12月から  
毎月開催!  
メールで  
ご案内

キャンペーン期間中の入会者向けZ-GISの初級WEB講習会を開催

1月16日、1月23日、2月13日、2月20日 ※すべて16:00~1時間

## Z-GIS 全農 営農管理システム

でできること

1 管理項目別に色分けや抽出が可能!



2

管理項目を  
地図上に表示!



3 1kmメッシュ気象情報を確認可能!



4

スマホからも  
簡単入力可能!



利用料金は、100圃場ごと月額220円(税込) **費用を抑えて圃場管理が始められます!**

【お問合せ】 JA全農耕種総合対策部スマート農業推進課 TEL03-6271-8274 ✉ zz\_zk\_smart@zennoh.or.jp

JAグループ

全農